



# 杉退教・さくら会 たより

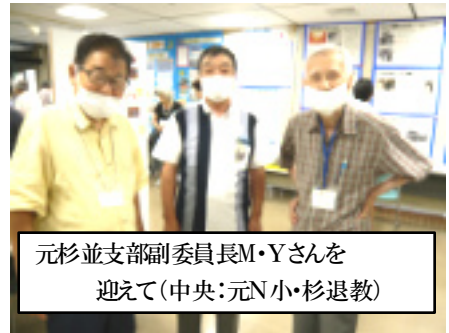
杉並区退職教職員の会（さくら会）

杉並支部HP <http://tokyousosuginami.web.fc2.com>

〒167-0031 杉並区本天沼 1-2-19 都教組杉並支部内 Tel 3399-8719 Fax 3399-3855

## すぎなみピースフォーラム

猛暑の中 8月4～6日…  
産業商工会館で開催・成功しました



元杉並支部副委員長M・Yさんを  
迎えて(中央:元N小・杉退教)

ロシアのウクライナ侵攻が始まり一年半。いまだに停戦・終戦へのめどがつかず、「戦争は始めたら終わらない」という現実しか見えません。「日常が破壊される戦争。市民がミサイルで殺される毎日など、あつてはいけない!」のです。

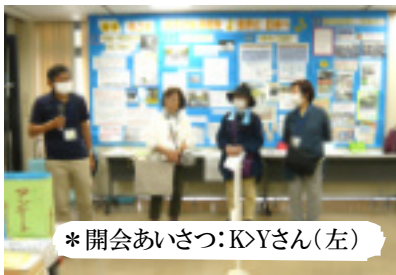
今年二月に、広島修学旅行に行った高校二年生の新聞投書が載りました。それは、「世界中の人に見てほしい」や「今すぐ核兵器を手放して」など、ヒロシマで17歳の時に感じ・学んだことが、これからの生き方・考え方・歴史観・世界観に影響を与えます。

五月に行われたG7広島サミットで、核保有国の首脳たちは原爆資料館を見て、何を感じ取ったのでしょうか? 『核なき世界』に迫れたかは、サーロー節子さんの「核兵器禁止の体温を感じない」と怒りと失望になりました。核抑止論は破綻しており、戦争による軍事対決、軍拡競争は、地球と人類を危うくさせています。

今年のピースフォーラムのテーマは「核・戦争はNO! 平和が地球の命を守る!」でした。平和主義の原点「戦争はやめよう!」について考えました。

杉並は戦前から平和運動を志向する先人たちがおり、戦後の原水爆禁止署名運動の発祥地としても知られています。多くの人の、とりわけ若い世代の人の力を借りてこれからも運動を広げていければと思います。

すぎなみピースフォーラム実行委員会



\*開会あいさつ:K>Yさん(左)

# 今年の夏も「平和について考える」 テレビ番組がたくさん放映されました

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| ◆ 5/3 大東亜共栄圏の3年8ヶ月 45m     | ◆ 8/13 太平洋戦争1943 分岐点 45m  |
| ◆ 5/4 あの日あのとき大江健三郎 79m     | ◆ 8/14 なぜ戦争へと向ったのか 49m    |
| ◆ 5/4 ヒロシマをつなぐ体験継承 25m     | ◆ 8/14 リーダーたちの迷走 49m      |
| ◆ 5/20 ウクライナ市民と核兵器 59m     | ◆ 8/26 沖縄戦 発掘され発た米軍録音 54m |
| ◆ 5/22 独ソ戦争 地獄の戦場 45m      | ◆ 7/3 チャーチルVSヒトラー 45m     |
| ◆ 5/29 ベトナム戦争 米の誤謬 45m     | ◆ 8/6 原爆が奪った 中学生の未来 49m   |
| ◆ 8/5 命眠る海 太平洋 49m         | ◆ 6/18 戦争…なぜ殺し合う 49m      |
| ◆ 6/10 ミッドウェー海戦 命の重さ 59m   | ◆ 8/28 「はだしのゲン」と父 59m     |
| ◆ 6/22 ミッドウェー海戦 戦後に 59m    | ◆ 8/26 玉砕の島を生きてサイパン 59m   |
| ◆ 8/21 GHQ6年8ヶ月 マッカーサー 45m | ◆ 8/28 プーチンとゼレンスキー 45m    |
| ◆ 8/12 太平洋戦争1942 分岐点 54m   | ◆ 8/30 関東大震災100年集團の狂気 27m |



\*NHKアーカイブ・NHKプラスなどで視聴できるかもしれません。



▲この「絵手紙」

T・Kさん からいただきました。

(元S小学校)

自作・他作「マイナ山柳」

- ・マイナンバー ナンマイダーと聞き遠え
  - ・国民を詐欺グループのカモにする
  - ・ポイントを餌にしてゆるマイナンバー
  - ・マイじやないお国のためのクニナンバー
  - ・ホロが出た 役所の端ホロすぎる
  - ・漏えいは 想定外とは言えぬ過去
  - ・ナンバーも 姓もこの際別々に
  - ・写真には 誓はだめえはのボンボン
  - ・納棺に 忘れず入れえろ マイナンバー
- お粗末でした・・・合掌・たか坊主

# 杉並ぞうれっしや合唱団 ファミリーコンサートを終えて



7月9日(日)、杉並公会堂グランサロンで、50名の合唱をお客様100人余に聴いていただき、成功裡に無事終わることができました。

コロナ禍、お客さんの人数を制限してコンサートを実施してきて、  
 今年は4年目！ 平和の歌を歌い継ぐことができました。  
 来年は、新装オープンする「セッション杉並」で開催できればと  
 今から 意気込んでいます。 Y・K (元H小学校)

ご無沙汰しています  
 「さくら会たより」ありがとうございます M・I



「さくら会だより」7月号の巻頭のY・Iさんは、M中学校時代の同僚で、同学年5人で「ダボスの会」と名付けて、旅行に行ったり、『源氏物語』などの読書会を30年近く続けていた仲間です。チーフがコロナ下で亡くなられ、「ダボスの会」もご無沙汰です。

Iさん、元気な様子に嬉しくなりました。

そして現在は、O中学校時代の同僚

5人の「ポレポレ」の会で、月1度、映画鑑賞や『源氏物語』探究を楽しんでいます。こちらの会は、2006年公開の映画「麦の穂を揺らす風」を鑑賞して以来ですから17年になります。その一人の先輩から送られてきた『ゴッホのプロヴァンス便り』について書きました。お勧めの一冊です。

添付します。

(次ページ掲載)

# ゴッホのプロヴァンス便り 手紙とスケッチで出会う、あたらしいゴッホ

〇中学校勤務時代の先輩の先生から3冊の本が届けられた。2冊は源氏物語関連の本で、3冊目は『ゴッホのプロヴァンス便り』（マール社）だった。見た途端、カバーの絵に身が震え、ゴッホだ！と思った。そして、すぐ読み始めた。

カバーの絵は、<サン=ポール病院の後ろの山脈の風景>、そして、扉は<前景にアイリスのあるアルルの眺め>。いずれもゴッホ独特のグリーンとイエローの広がり心震わす。出だしはアルル到着二日後の1888年2月22日の親愛なるテオへの手紙で始まっている。

アルル到着のページに紹介されているのは<白い果樹園>と<グラスに入れた花咲くアーモンドの枝>だ。ああ、この<アーモンドの枝>は、2016年、都美術館の「ゴッホとゴーギャン展」で見た絵だ。エスカレーターを上った右手の部屋の最初に飾られていた絵だ。まるで日本の絵だわと驚いたのをまざまざと思い出す。そして<黄色い家>と<ローヌ川の朧月夜>へとページは続く。黄色い家の前のあのラマルティンヌ広場の端にローヌ川が見えたと書いてある。南仏の旅で、私たちは旧市街のホテルからわざわざローヌ川を見に行ったのだけど……。その途中にゴッホの耳を治療したレー医師の住まい跡を確認したけれど……。ラマルティンヌ広場からローヌ川に行きたかった。残念！

そう、アリスカンも歩いたわ。<アルルの病院の中庭>は私たちが訪れた時と同じ。そして私のキー飾りは<郵便配達夫ジョセフ・ルーランの肖像>。掲載されている肖像画よりハンサムだ。

<ゴーガンの肘掛け椅子>の2冊の本。書名は書かれていないけれどゴッホは読書家だった。彼の愛読書はバルザック、モーパッサン、ゾラ、ディケンズ、ゴンクール兄弟等。特に、自然主義の作家が好きだった。しかし<玉ねぎのある静物>の机上の本は、フランソワ=ヴァンサン・ラスパイユによる医学書『健康年鑑—家庭での医学と調剤』。この絵は耳たぶを切って入院し退院してから数日後の作品だ。<エッテンの庭の記憶>の女性のモデルは妹のウィルと母。ウィルはディケンズの小説の登場人物みたいだとゴッホはウィル宛ての手紙に書いている。ディケンズはもう一枚の<アルルの女>の机上にも置かれている。そうそう、弟のテオには『レ・ミゼラブル』を勧めていた。ドーデの『風車小屋だより』の風車も<アルファンス・ドーデの風車がある風景>という題名でスケッチされている。

ゴッホの絵の中には本が描かれているものが9枚ある。書名がわかるのは7枚。描かれた本でゴッホの読書に迫るのも一興だ。

作家だけではない。手紙には画家の名前も多く登場しているし、「自然界では、ワーグナーの音楽で起きている

ことと同じ現象が起きるんだ。ワーグナーの曲はフルオーケストラで演奏しても親密な感じがするだろう。」とワーグナーを採り上げ、(自然界の)ぜんぶの色を強調していくと、やがて穏やかで調和のとれた状態へと到達するという持論を、1888年3月のウィル宛ての手紙に書いている。

それにしても、ゴッホのこの色の鮮やかさはどうだろう。

<黄色い家>は黄色と空の青、<収穫>も<種まく人>も黄色の世界、<15本のひまわり>も黄色だけの世界、<郵便配達夫ジョセフ・ルーランの肖像>も<ルーラン夫人と赤ん坊>も<アルルの女>も背景は黄色。そして、耳に包帯をした<自画像>と<ズアール兵>と<ガシェ博士の肖像>は赤と緑とイエローとブルー。<落ち葉(アリスカン)>は赤と緑だけの世界だ。そう、<ガシェ博士の肖像>の背景のブルーはあの<星月夜>の色だ。そして月はまたしても黄色。

ゲーテは説く。黄色は光に最も近い色で、光は神なるものの啓示に他ならず、神の光に最も近い色彩を黄色であると。ゲーテの大成した色彩の理論を色彩研究の基盤として補色の理論を説いたドラクロワ。そのドラクロワの補色の理論を取り入れようと試みたゴッホ。耳に包帯をした<自画像>はその試みだったと西岡文彦は説いている(『謎解きゴッホ 見方の極意 魂のタッチ』河出文庫)。

ゴッホの手紙と絵とスケッチとで構成されている『ゴッホのプロヴァンス便り』。そのサブタイトル通り、手紙

と絵がマッチしてゴッホの絵の世界が見えてくる。ゴッホのプロヴァンスは色の三原色と光の三原色の世界だった。

私の「新しいゴッホ観」の誕生だ。段ボール箱に積み込んだ30冊ほどのゴッホの資料の中で、『ゴッホ星への旅上・下』(藤村信著/岩波新書)、『謎解きゴッホ』に続く、大切な3冊目のゴッホの本となった。

(2023・7・11)

M・I

(元O中学校)



「黄色い家」とラマルティンヌ広場

(2017・6・15撮影)

### 【追記】

9月のハイキングを楽しみにしています。足慣らしに8月20・21日にSさん指導の下、さくら会メンバー、4人で白馬に行ってきます。

7月11日

えっ!白馬岳?まさか大雪渓を登って白馬山頂をめざすんじゃないよね。

後日、ハイキングの件でSさんの携帯に電話したら「いま、4人で特急あずさに乗っています。これから梅池高原に行きます。」とのこと。

納得しました。「行ってらっしゃい。」

T・T

# 4年ぶりのハイキング . . . . . 伊勢原の「彼岸花の里」と 「古刹：日向薬師」



- と き： 9月20日（水） 雨でも行きます  
集 合： 8時20分 小田急西口 1階（地上階）改札口  
（8：33発 急行：小田原行にのります）  
コース： 新宿⇒伊勢原（バス）⇒日向薬師（日向薬師往復と彼岸花の里散策）  
日向薬師（バス）⇒伊勢原（小田急）⇒渋沢 「いろは食堂」 食事  
14時30分ころ解散（希望者は落花生店「豆はな」へ）  
費 用： 交通費 新宿から 2240円 食事代 4000円＋飲み物代

- 申込み： 9月13日（水）までに  
適宜な用紙に ①9月20日ハイキングに参加する旨 ②氏名  
③集合場所 \*新宿改札口 \*この電車に途中駅から乗車  
\*伊勢原駅改札で合流（9：38） など記入  
④携帯電話をご持参の場合 電話番号を記入して  
都教組杉並支部 まで FAXを 03-3399-3855  
\*電話の場合は、火曜～木曜の午後2時ごろに  
都教組杉並支部の電話 03-3399-8719 へ。  
書記さんに参加する旨伝えてください。  
他の時間帯は留守電でもよいです。 レク係： H・S

●娘「トイレ行ってくる」/ 母「女の子なんだから、ちゃんと“お”を付けなさい」/ 娘「トイレ行ってくるお」/ 母「・・・」

●先生 「教科書読んで」/ 生徒 はい。『最近家の姉が色づいてきました…』」/ 先生 「！？ …その字は姉じゃない柿だ。」

●今日、息子を床屋に連れて行き、オレは待合でコーヒー飲んでいたら / 店員「もみあげはどうしますか？」/ オレ「（あいつ、もみあげって意味わかるか？）」/ 息子「とりあえず揉んどいてください」/ コーヒー吹いた

●ままごと / A子「おそば屋さんにカレーなんぼんたのうかな。B子ちゃんは何にする？」/ B子「わたしカレーいち番 がいい。」/ A子 ???

ちよつと一息